

資料1 「疫病退散！お札で願う 中世の呪符木簡」の出土について

沖塚原企業団地造成事業に伴う沖塚原東B遺跡の本発掘調査において、屋敷地の区画溝とみられる遺構から、市内で初めて鎌倉時代の呪符木簡が出土しましたので、現地説明会にて展示・公開します。

1 出土日 令和3年9月24日(金) 屋敷地を囲む区画溝より

2 寸法 長247×幅55×厚4 (mm)

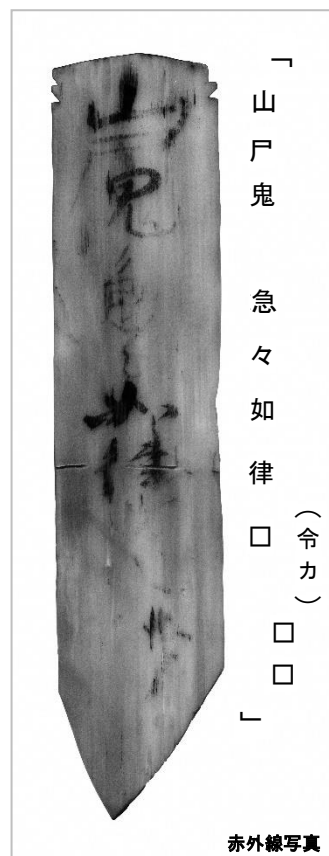
3 釈文 〔山戸鬼 急々如律□ □□〕
(令カ)

4 呪符木簡 信仰や呪術といった呪い(まじない)のために使用され、災いや邪気を払うための呪文や符号を書いた木札のことを指します。

釈文の急々如律令(きゅうきゅうによりつりょう)とは中国漢代の行政文書に使われた言葉で、「律令に従い至急対処するように」と命じるものです。

日本に伝わったとき、道教の流れをくむ陰陽道により、朝廷儀礼や貴族が魔除けを行う場面などで「鬼(わざわい)よ、早く去ってしまえ」と悪鬼を払う呪文になったといわれています。

目に見えない疫病は、いつの時代も人々を不安にします。13世紀後半から14世紀初頭に生きた射水の人々が疫病を免れる呪いであり、また鬼が出入りする方角であるとして忌むべき方向の鬼門(北東)から出土していることも、当時の精神世界の一端を伺える貴重な資料です。



赤外線写真

5 主な遺構 掘立柱建物、溝(区画溝)、井戸、土坑、道路址

6 主な遺物 縄文土器、弥生土器、土師器 須恵器、珠洲焼、八尾焼、青磁 白磁、瀬戸美濃焼、漆器碗(皿) 下駄、呪符木簡、銅銭、種子

7 現地説明会 令和3年10月24日(日)
10時～16時【予約制:100人】

※小雨の場合は、決行します。当日朝、大雨・暴風警報の発令時は中止します。

8 問い合わせ先 生涯学習・スポーツ課 文化財係
電話 0766-51-6637

